



特別号 藤城だよい

よりよし藤城教育のために ～令和7年度前期 藤城教育アンケート～

令和7年10月1日
京都市立藤城小学校
TEL 621-5580
学校長

7月に行った前期藤城アンケートについての結果をまとめました。今年度も、児童・保護者・地域の方・教職員の4つの視点から藤城の子の実態を振り返り、良かったところやもう少し頑張っていきたいところ、そして2学期に向けてどんな姿を目指していければいいのかを考えました。夏休み中の対話研修として、教職員が自分の担当学年のアンケートを見て、2学期にどんな取組をしていくかを話し合いました。そして、9月に行われた学校運営協議会では、地域の方から見た視点でたくさんのご意見や藤城小学校への熱い想いを共有しました。

＜教職員の対話研修＞（昨年度後期の児童アンケートと比較して話し合いました）



＜教職員が目指したい藤城の子の姿＞

- | | | | |
|-----------------|-----------|-----------------|---------------|
| ・自分で楽しみを見つけられる子 | ・自分の素を出せる | ・子ども同士が認め合える | ・安心してチャレンジできる |
| ・人の気持ちを考えられる | ・素直で元気 | ・しっかり話を聞くことができる | ・自信をもって行動できる |
| ・自己肯定感を高くもつこと | | | |



教職員の対話研修で出た多くの意見が『自己肯定感をあげる』ことでした。具体的な取り組みには以下のような意見が出ました。

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| ① 授業で自分で考える場面を多くつくること | ⑥ 授業で人とのつながりを感じられるような工夫・展開にすること |
| ② クラスの中でお互いに認め合える場面をつくること | ⑦ 個別にほめて、自分のいいところを自分でも褒められるように |
| ③ 活躍する場面をつくること（係活動など） | ⑧ 話す機会をたくさんつくること |
| ④ 得意なことを認め合える雰囲気づくり | ⑨ 思ったことを言いやすい環境づくり |
| ⑤ 子どもの思いをまず受けとめ、認めること | ⑩ できていることを認め、褒めること |

この対話研修には、専科教員、用務員さん、事務職員さん、給食調理員さんにも参加していただき、ご意見をいただきました。

＜対話研修をした感想＞

- ・学校アンケートで、高学年になると自己肯定感が下がっていることが気になりましたが、自己に対する見方が厳しくなるなど精神的に成長していることが要因かもしれません。
- ・学校が楽しく思える様な環境づくりをしていきたい。
- ・初めてこういう研修に参加させていただきました。先生たちが日ごろからこういう研修を通して子どもたちが少しでもよくなっているように話合いをしていることが分かりました。給食調理員として少しでも力になれるように日々がんばっていきたい。
- ・給食室で当番の子たちと話したり、あいさつをしたり仲良くなりたいと思いました。

アンケート結果をもとに様々な立場で子どもたちとの関わり方を工夫していきたいと思います。今回の児童のアンケート結果をうけて、毎日の授業や授業以外での取り組みについても改善を行って、学校教育目標である『思いやりの心をもって、生き生きと活動する子』を目指して教職員一同頑張っていきたいと思います。

<学校運営協議会での話し合い>



<グループ協議で出たご意見>

<情報モラルについて>

- ・テレビ・SNS などで様々なメディアに触れる機会が多くなってきた昨今、子どもたち自身で情報の取捨選択や情報が正しいかどうかを見極められるようにしていく必要がある。親ができていない場合もあるので、大人がまず情報の正しい見方や考え方をしっかりと身につけて、子どもたちに示していく必要がある。

<学校が楽しい>

- ・学校が楽しくないと回答している児童が 40 名ほどいる。高学年に比較的多く見られる。高学年になると、友達関係も変わってきたり、複雑になることが多いのでしっかりと子どもの話を聞く時間をもつことが大事だと思う。

<我が家では、子どもの良さを認め、褒めるよう心がけている>

- ・回答してくださった保護者の方の9%は、子どもたちのことを認められていないと回答している。子どもたちの良さや頑張りをご家庭で褒めたり、話したりすることの積み重ねが自己肯定感を高める何よりも要因となるので是非子どもたちと会話をしてほしい。一方で、なかなか子どもと話す時間をとれない現状もある。保護者の方は、学校のお便りやすぐーる配信、ホームページなどで子どもたちの様子を知って、子どもと話す機会を少しずつでもとっていただきたい。

<コミュニケーション能力について>

- ・藤城の子たちはコミュニケーション能力は、高いと思う。子どもたちを地域ぐるみで育てていることが要因だと考えられる。地域の方にあいさつをしっかりしている姿もよく見られる。多くの方が地域の行事を大切にしていて、卒業しても帰ってくる場所がある安心感があるので、地域全体に一体感がある。今後もこの地域性は続いていってほしい。

<外遊びについて>

- ・外遊びをすることが健康促進のためや体の成長に関わることは分かるが、設問が少し時代と合っていない気がする。休み時間には読書したり、友達と話したり、学習の直しをしたりと休み時間の過ごし方が多様化している現状があるため、外遊びをしている児童が少なくなっているのは理解できる。

<ホームページについて>

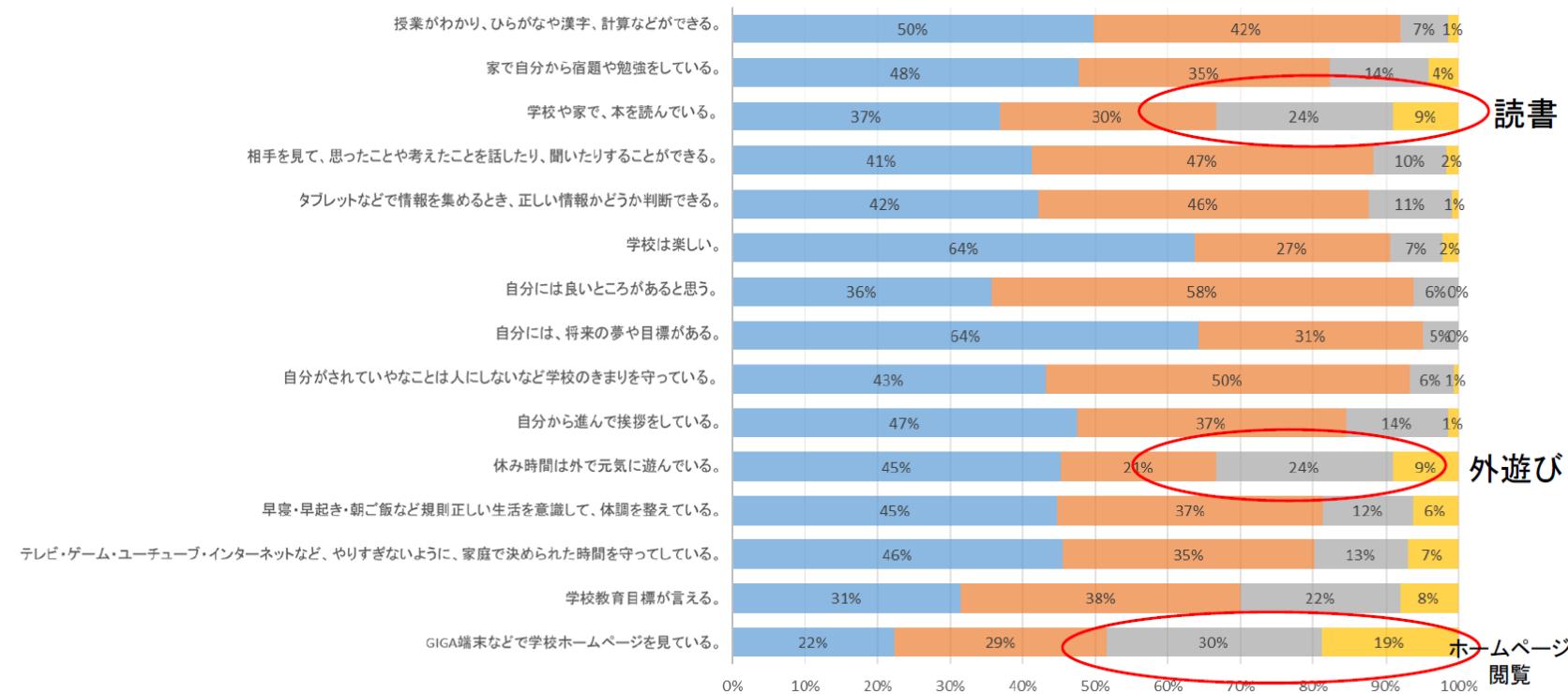
- ・保護者の方々は、なかなかホームページを見る機会がないとお話しされていた。ホームページには、各学年の取り組みや様子が定期的に更新されているので、是非閲覧していただきたい。学校としても、少しずつではあるが、子どもたちの生き生きと活動している姿をホームページにアップしていきたいと思う。

<読書について>

- ・家庭の力が大きいと感じる。学校では毎朝 10 分間読書を取り組んでいるが、なかなか読み進められない児童もいる。2 学期から図書ボランティアの方が絵本の読み聞かせをしてくださるのがありがたい。

●アンケート結果を掲載しておきますのでご覧ください。

アンケート結果:児童

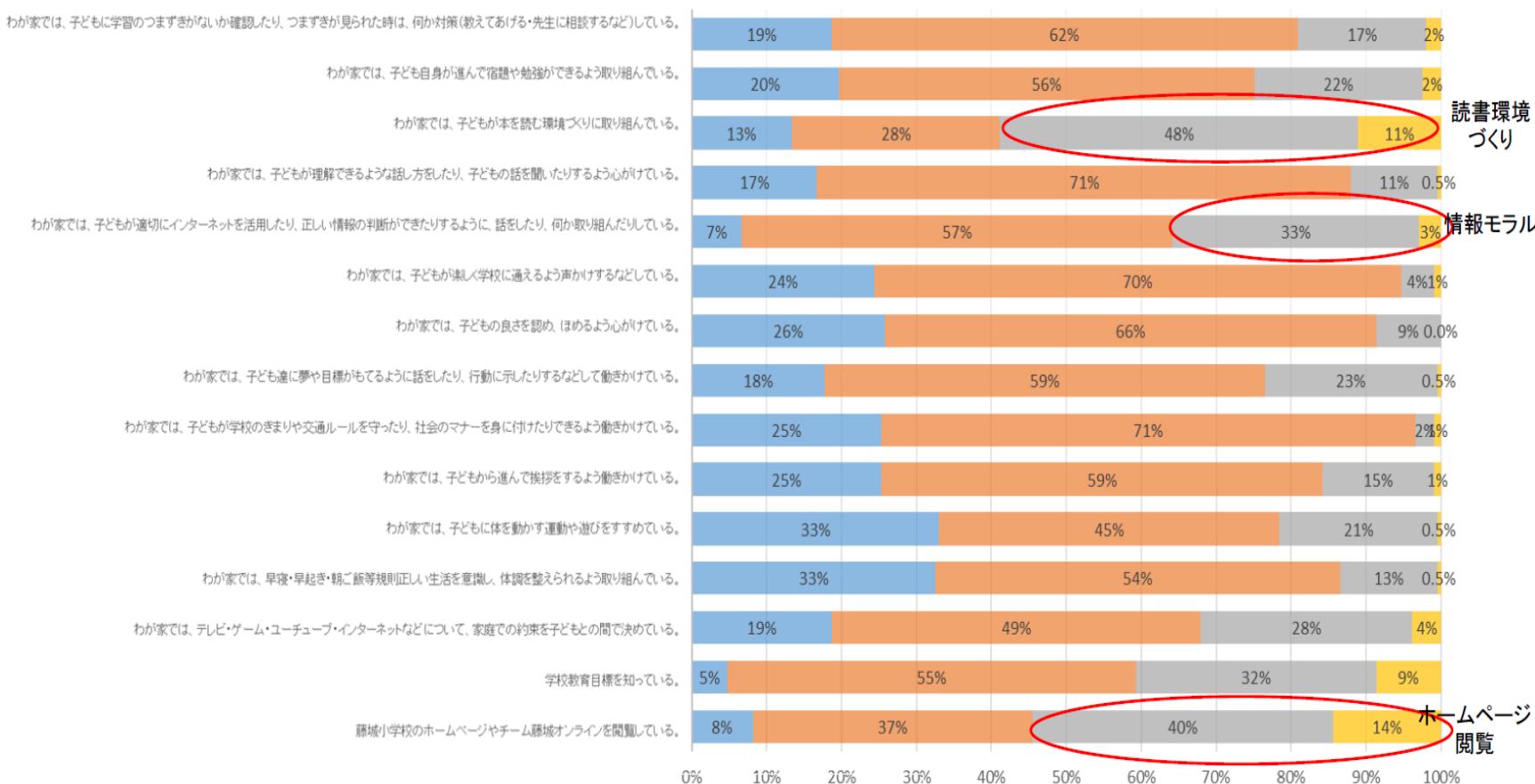


課題:読書・外遊び・ホームページ閲覧

長所:読み書き計算・学校は楽しい・良いところや夢がある

凡例: ①よくできている ②大体できている ③あまりできていない ④できていない
 ※1: ①とても楽しい ②まあまあ楽しい ③あまり楽しくない ④楽しくない
 ※2: ①たくさんある ②まあまあある ③ない ④ない
 ※3: ①はっきりとある ②なんとなくある ③ない ④言えない
 ※4: ①しっかり言える ②大体言える ③あまり言えない ④言えない

アンケート結果:保護者



課題:読書環境づくり・情報モラル・ホームページ閲覧

長所:子どもの話を聞く・きまりを守るよう働きかける

凡例: ①よくできている ②大体できている ③あまりできていない ④できていない
 ※1: ①よく知っている ②大体知っている ③あまり知っていない ④知っていない

アンケート結果:教職員



子ども達に、ひらがなや漢字、計算などの基礎的な学力の定着を図り、つかい力を明確にした授業づくりに取り組んでいる。

35% 52% 13% 0%

家庭学習の習慣を身につけるための工夫や内容の充実を図っている。

22% 65% 13% 0%

読書活動の充実に向けて取り組んでいる。(読書タイム・図書室の利用・読書ノート・読書の取組など)

39% 48% 13% 0%

相手を意識して話したり聞いたりできる力、学年に応じた書く力の指導に取り組んでいる。

43% 43% 17% 0% **指導**

子ども達がICTを活用する授業づくりを工夫したり、情報モラルの指導に取り組んだりしている。

52% 39% 9% 0%

子どもたちが、楽しく学校に通えるような取組を行っている。

43% 52% 9% 0%

子どもの良いところを認め、ほめるよう心がけている。

57% 43% 4% 0%

子どもたちに、夢や目標持てるよう話をしたり、行動に示したりするなどして働きかけている。

43% 52% 9% 0%

子どもたちが学校のきまりを守り、学習規律が身につくよう取り組んでいる。

43% 57% 4% 0%

自分から進んで挨拶をするよう働きかけている。

57% 43% 4% 0%

休み時間は、子どもに外で遊ぶように声かけを行うなどして働きかけている。

30% 57% 17% 0% **外遊び**

健康や安全に配慮した取組や適切な声かけをしている。(早寝・早起き・朝ご飯をはじめとした保健指導など)

43% 57% 4% 0%

テレビ・ゲーム・ユーチューブなど適切に時間を守ってするよう声かけをするなどの取組を行っている。

35% 52% 17% 0%

学校教育目標に向けて子どもの育成に取り組んでいる。

52% 52% 0% 0%

学級・学校だより、学校ホームページなどで、学校の様子を保護者に伝えている。

35% 57% 9% 0%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■① ■② ■③ ■④

課題:話す聞く書く力の指導・外遊びへの働きかけ

長所:学校教育目標を意識・学習規律・ホームページ発信

凡例: ①よくできている ②大体できている ③あまりできていない ④できていない

アンケート結果:地域



学校は、子どもたちが楽しく通えるような場所になっている。

26% 56% 4% 15%

子どもたちは、地域でのルールを守ったり、望ましい言葉遣いで話したりするなどのマナーを身に付けている。

15% 70% 4% 11% **ルール・言葉遣い**

子ども達や教職員は、すすんで挨拶をしている。

19% 70% 0% 11%

学校は、地域の活動や行事などに積極的に協力している。

67% 30% 0% 0%

学校は、学校教育目標「思いやりの心をもって生き生きと活動する子」を目指して取り組んでいる。

33% 48% 4% 15%

学校は、藤城小学校のホームページ等で学校の様子を分かりやすく発信している。

48% 41% 0% 11%

学校は、地域の声を聞き、学校運営に生かすなど開かれた教育活動を行っている。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■① ■② ■③ ■④ ■⑤

課題:地域でのルールを守る、望ましい言葉遣い

長所:学校が地域行事に参加・開かれた教育活動

凡例: ①よくできている ②大体できている ③あまりできていない ④できていない ⑤わからない